

補助動詞「ておく」の使用が示す配慮

大和啓子（群馬大学）

要 旨

本稿では補助動詞「ておく」の意味特徴、その使用に人称の制限などの特徴があることを確認したうえで、「ておく」の語用論的機能を考察した。依頼、申し出、断りの行為の中に現れる「ておく」の特徴について分析したのち、その特徴がどのように配慮として機能するのかを考察した。「ておく」を使用することで、依頼する行為の遂行への話者の非関与の表示、申し出た行為遂行への相手の非関与の表示、断りの弁明が暗示され、それらが配慮の機能へとつながることを述べた。

キーワード：「ておく」、人称制限、行為への関与、ポライトネス、対人配慮

1. 本稿の目的

本稿では以下のような補助動詞「ておく」を考察の対象とする。^(注1)

- (1) (近くにゴミ箱がないので、店員さんに)
 - a. これ、捨てておいていただけますか。
 - b. これ、捨てていただけますか。
- (2) (ケアマネージャーが利用者に対し、)
 - a. 手続きとかは、私のほうでやっておきますよ。
 - b. 手続きとかは、私のほうでやりますよ。
- (3) (友人からの誘いに対する返答として)
 - a. きょうは、遠慮しておきます。
 - b. きょうは 遠慮します。

「ておく」を使用する(1a)～(3a)は、括弧書きの中に示されるような同様の文脈において、「ておく」を伴わない(1b)～(3b)で言い換えることが可能となる。母語話者直感として、対人配慮の機能があるように感じられるが、なぜ「ておく」という形式の使用によって、配慮が表されるのかという問いが生じる。

本稿ではまず先行研究から「ておく」の意味特徴を確認する。そのうえで、上記の(1a)～(3a)について、「ておく」という形式に備わる意味特徴とそれぞれの文脈との関係から、「ておく」がコミュニケーション上でいかに機能するのかについて考察することを目的とする。

2. 「ておく」の先行研究と本稿の立場

2.1. 「ておく」の基本的な意味と諸用法

「ておく」については、これまでに数多くの研究の蓄積がある。高橋(1976)は「して

おく」には、対象を変化させて、その結果の状態を持続させる「すがた（アスペクト）」の用法と、次におこることがらのために準備的な動作としておこなう動作をあらわす「もくろみ」の用法とがあるとした。吉川（1976）は「ておく」の基本的意味がアスペクトにあるとしたが、その後続く研究は、笠松（1993）、谷口（2000）、山本（2005）、菊池（2009）などもくろみの観点からの研究が重ねられている。

菊池（2009）では、「ておく」の中心的な意味特徴を、「後の時点における効力の発現を見越して、意図的にその行為を行う」ことであるとして、従来の研究で指摘される諸用法を含め「ておく」の全体像を提示することを試みている。「ておく」の最も典型的なわかりやすい例は「準備」の例（4）であるとし、従来の研究における「アスペクト／持続」（5）「放置（放任）」（6）「終結」（7）という各用法についても「後まで見越したうえで」「よかれと思って」という基本的な意味特徴により説明している。また、従来の研究における「一時的処置」（8）用法については中心的な意味特徴の一部が弱化し「後で効力が発現することを見越して」が単に「それがよい措置だと考えて」というだけになった使い方として、周辺的な用法として位置づけている。そのほか、吉川（1976）が「つよがり」を表現するとした特例（9）についても、「後の時点における効力の発現を待たずに、行為の時点ですべてに対象に対する効力を持つ行為」として、中心的意味特徴の一部が緩められた周辺的な用法としている。

(4) 明日は試験だから、今日はたくさん勉強しておこう。（菊池 2009:2）

(5) わたしの家では、見かねて、このあいだ、「ごみをすてないでください。」と立てふだをたてておきました。（吉川 1976:269）

(6) 違法駐車はいつもすぐ通報して運んでもらうようにしている。しかし、今日は止めた人を特定するために、車の所有者が戻ってくるまで放置しておいた。（山本 2005 : 209）

(7) 元気なうちに富士山へ登っておきたい。（谷口 2000:）

(8) A : これ、どうしましょう？

B : そうだね。一応、コピーとっておこうか。（山本 2005 : 214）

(9) そういつてやり込めておいたんですよ、大臣を。（吉川 1976:291）

2.2. 「ておく」の人称制限

菊池（2009）では、「ておく」の人称の制約についても指摘している。「ておく」の行為者は、その行為の意図性の有無を話し手が認定できる人物でなければならないとしている。典型的には、話し手自身であるが、命令・依頼の場合には、話し手が相手を「意図をもってその行為を行う人物」として想定・期待しているため、2人称者を行為者とすることができるとしている。

また長野（1995）では「XがY（有情物）にZを～する」型の動詞（寺村 1982 で授受の表現としてまとめられている動詞）に「ておく」が付くと、二格の人称に場合によって制約が生じることが指摘されている。

2.3. 母語話者の「ておく」使用動機

佐藤（2015）では、日本語学習者にとって「ておく」の使用・不使用の違いがわかりづらいことを指摘し、文法的な研究に加え、語用論レベルでの分析が必要だとし、母語話者へのアンケートから「ておく」の使用・不使用の動機を探り4つの要因「段取り意識と行為遂行のタイミング考慮」「結果の予想・確認による行為遂行の振り返り」「丁寧さ等の含意」「行為の存在自体の叙述（ておく非選択要因）」を示している。

2.4. 本稿の立場

本稿では、菊池（2009）を援用し、「ておく」の中心的な意味特徴を「後の時点における効力の発現を見越して、意図的にその行為を行う」ものとする。

- (11) (近くにゴミ箱がないので、店員さんに)
- a. これ、捨てておいていただけますか。
 - b. これ、捨てていただけますか。 ((1) 再掲)
- (12) (ケアマネージャーが利用者に対し、)
- a. 手続きとかは、私のほうでやっておきますよ。
 - b. 手続きとかは、私のほうでやりますよ。 ((2) 再掲)
- (13) (友人からの誘いに対する返答として)
- a. きょうは、遠慮しておきます。
 - b. きょうは 遠慮します。 ((3) 再掲)

そのうえで、(11a) (12a) (13a) のような例について、「ておく」が使用されることによってコミュニケーションの中でどのように機能しているのか、事例の分析を通し、それが現れる文脈との関係から考察していく。

3. 「ておく」の使用とその配慮

3.1 依頼における「ておく」の依頼者の非関与

本節では、依頼（命令・指示等も含む）で「ておく」が用いられる例について考えていきたい。

まず、「ておく」を用いた依頼の場合、発話者がその依頼によって遂行される行為の受け手となれない場合があることを確認しておきたい。

- (14) (本の返却方法を尋ねられて)
- a. ゼミの時に、直接（私に）{返して／？返しておいて} ください。
 - b. ゼミの時に、研究室に {返して／返しておいて} ください。
- (15) (会議を途中で抜けるとき、部下に)
- a. あとで詳細を（私に）電話で {連絡して／？連絡しておいて} ください。
 - b. あとで詳細を 秘書に電話で {連絡して／連絡しておいて} ください。
 - c. あとで詳細を（私に）メールで {連絡して／連絡しておいて} ください。

発話者である依頼者自身が、直接本の返却や電話連絡を受けるという場合には「ておく」を用いることができない。ただし、本を返却するという行為、連絡するという行為が第三

者によって受け取られる、あるいは行為遂行後に依頼者によって確認されるような場合には、「ておく」の使用が可能となっている。このことから、「ておく」を用いることで依頼者が行為遂行に直接関与しないことが示される。

さらに、行為の「後の時点で発現する効力」という意味特徴が加わることで、「ておく」を用いる依頼は、「依頼者にとって、行為後に発現される効力が必要で、行為遂行は行為者に任される」ことが示される。

依頼は、そもそも相手の行動に制約を与える FTA であり、相手のフェイスへ何らかの補償が必要とされる行為である^(注2)。「ておく」の使用は、依頼者が行為遂行に直接関与しないと表明すること、言い換えれば、依頼した相手のやり方に任せると示すことは、相手の行動の制約を緩和し、他者に邪魔されたくないというネガティブ・フェイスの補償につながっていると考えられる。

実際の例を見てみる。

(16) ゴミ箱が見当たらなかったの、売り場に戻ってお姉さんに「捨てておいていただけますか？」と渡した。(食べログ)

(17) まじめな態度で丁寧なお仕事をして頂いたと思っています。

職人の方々にもお礼を言っておいてください。(アンケート)

(16) の文脈では、「捨てていただけますか。」と「ておく」を用いない形でも依頼することは可能である。「ておく」を用いることで、いつどこに捨てるかなどは捨てる人に任せると示し、相手のネガティブ・フェイスに配慮した表現となる。(17) 「言っておいてください」は、第三者への伝言をするときによく用いられる表現であるが、これも「言っておいてください」というよりも行為者による自由度を残した表現となっている。

このように「ておく」を用いた依頼は、ポライトな表現と成り得る反面、話者が行為遂行に直接関与しないことの表明が、相手の負担を考慮しない失礼な表現とも成り得る。

(18) カメラ割りなんか『そっちで適当にやっついてよ』とFD (フロア・ディレクター) 任せにしたり。そんな人だからFDは働かされちゃう。そうでなくとも当時フロア・ディレクターは忙しかったんですよ。(『実録テレビ時代劇史』)

(18) のように、「やっついてよ」と話者の非関与を表明することが、相手の負担を考えずに仕事を丸投げしているというような無責任な印象を与えることもある。^(注3)

2.2. 申し出における「ておく」と相手の非関与

次に、申し出に用いられる「ておく」について考える。ここでの申し出とは、話し手が相手の利益となる行為を行うこととする。

申し出の代表的な表現として「～ましようか」という形がある。また、「ておく」を用いて、「～ておきましようか」といって申し出ることも可能である。

(19) 重そうですね。{私が／一緒に}運びましようか。

(20) 重そうですね。{私が／?一緒に}運んでおきましようか。

(21) 資料の準備、{手伝いましようか／?手伝っておきましようか。}

(19) の申し出は、話し手が一人で運ぶ場合にも、相手が運ぶのを一緒に手伝う場合にも言えるが、「ておく」を用いる(20)では、相手と一緒に運ぶという申し出には使えない。

また、(21) のように相手が行っている行為を共同して行う「手伝う」ことを申し出る場合には「ておく」が使えない。つまり、申し出において、「ておく」を用いると、相手は話者の行う行為に直接関与しないことを示すといえる。

(22) 地元の介護用品ショップなどを簡潔に教えてもらい、「領収書を持ってきてもらったら、私のほうで手続きとかはやっておきますよ」、「それでは、お言葉に甘えてお願いします」などとやりとりをしていると（後略）（親ケア）

(23) 家に帰っても、何もする気が起きなくて落ち込んでいたらエリが私に「チャーハン」を作ってくれました。とっても美味しかった。「私がやっておくよ」と、後かたづけもしてくれました。（Yahoo! ブログ）

(22) の申し出文脈で、「ておく」をもちいることで、ケアマネージャーが、介護について相談に来た相手に対し、私が手続きをするから、あなたは何もしなくてよい、私に任せてというような相手の非関与を表明していると考えられる。(23) では落ち込んで何もやる気がおきないでいる相手のために食事の片づけをすることを「やっておくよ」と申し出ている。このように、「ておく」の使用が、申し出者に「代わりにしてもらおう」あるいは「任せる」ことを示している。

相手の求めていることを申し出ること自体が相手の欲求を理解していることの表明であり相手のポジティブ・フェイスを尊重する行為であるが、「ておく」を用いて、相手の負担の肩代わりを表明することは、他者への配慮の表れと言えるだろう。

しかし、「ておく」を用いる相手や状況によっては、逆にインポライتنا表現として働く場合もあると考えられる。例えば、「掃除しておいたよ」と同居人に伝えた場合、「あなたの代わりに」掃除をしたということになり、「本来はあなたが掃除すべきだった」という相手への非難として受け取られる危険性もはらんでいる。あるいは、行為者がやって当然の事柄をあえて「やっておいたよ」と報告することによって、恩着せがましさを感じさせる可能性もある。

2.3. 断りにおける「ておく」の関係修復性

誘いの断りにおいては、「やめておきます」、「遠慮しておきます」のような「ておく」を用いた表現が使われる。

(24) 「バトゥール湖にはいらっしやいましたか？」

「いいえ」

「島の北の山の中にある大きな湖です。きれいな湖ですよ。よかったら、これからぼくが車でお連れしましょうか」

「ありがとうございます。でも、きょうはやめておきます」

「そうですか。（後略）（男ともだち）

(25) 「お腹空かれました？ 簡単なものならすぐにできますけど」

「えっ」

思わず後ずさる。丸一日ぶんぐらいの食事をさっき取ったばかりだとういうのに。

「遠慮しておくよ。夜のディナーまで腹を空かせておかないと」

「そうですか？（後略）（幻夢館）

断りの中で「ておく」を使用することで、単にその行為をする（やめる・遠慮する）のではなく、「後のことを見通して良かれと思って」その行為をすると示す。つまり、誘いを断る「何らかの理由がある」ことを示しているといえる。

断りは相手の意向に沿えないことの表明であり、対人関係の不均衡を生じさせ、関係修復が必要となる行為である。日本語においてその関係修復に用いられるのは、主に「詫び」と「理由」であるとされる（村井 2009）。「ておく」を使用し、「何らかの理由がある」と示しつつ断ることは、断りの不均衡を修正する「理由」の提示に通じると言えよう。

なお、「やめておく」の場合には、「やめる」という動詞の選択動機にも、ポライトネスが関わると考えられる。動詞「やめる」は「予定していたことなどを途中で終える」という意味である。本来誘われた側にとって、誘いを断ることは、何かを「やめる」ことはない。しかし「やめる」という語を用いることによって、相手の誘いを一度自身の予定として共有したことを示していることにもなる。したがって、「やめておく」は断りを明示しながらも誘ってくれた相手のポジティブ・フェイスに配慮を示しつつ、そこに生じる不均衡を修正しようとする表現として機能していると言えよう。

4. 「ておく」の使用によってあらわされる配慮

以上、「ておく」が実際に用いられる文脈とそこで示される配慮についての記述を試みた。「ておく」の形式が備える意味内容、使用の制約、またそれが使用される文脈の特徴によって、配慮が表されることを確認した。

まず依頼行為においては、「ておく」によって相手の行為遂行への話者の非関与が示され、行為者のネガティブ・フェイスへの配慮として働いていることをみた。

続いて、申し出行為においては、「ておく」によって話者の行為遂行への相手の非関与が示され、そこから生じる「あなたの代わりに」というニュアンスが、相手の欲求を認めるというポジティブ・フェイスへ配慮として働いていることをみた。ただし、状況によっては、「あなたの代わりに」というニュアンスが、相手への FTA と成り得ることもあることを指摘した。

最後に勧誘の断り行為においては、「やめておく」という表現がポジティブ・フェイスに配慮しながら、断りによって生じた不均衡を修正しようとする表現であることを述べた。

5. まとめと今後の課題

本稿は、母語話者が直感的に感じる「ておく」の配慮性を、依頼・申し出・断りといった発話行為の中で、「ておく」という形式もつ中心的な意味や諸特徴から、説明することを試みた。「ておく」が他者との円滑なコミュニケーションを維持するための配慮を示す表現として機能する一方で、諸条件の下ではインポライトな表現となりうることも確認された。

また、本稿において、「ておく」で示される行為が、一定条件のもとで行為者以外に関与できなくなる特徴があることを指摘した。ただし、本稿はごく断片的な分析にとどまっており、さらに多様な文脈において「ておく」の使用を観察し、より体系的にその特徴と配慮との関係性を捉えていくことを今後の課題としたい。

注

- 注1 用例について、特に断りのないものは作例である。なお、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』BCCWJ 中納言版より検索した用例の改行は筆者による。
- 注2 Brown and Levinson (1987) は、人間誰もが自己の領域を邪魔されたくない、行動の自由を守りたいという欲求＝ネガティブ・フェイス(negative face)と他者に受け入れられたい、認められたいという欲求＝ポジティブ・フェイス(positive face)を持つとする。これらの欲求が、フェイス侵害行為(Face Threatening Act、FTA)によって満たされないとき、それを補償したり回避したりしてフェイスを保持しようとする。
- 注3 例(18)「ておく」と縮約形「とく」の違いについても考える必要があるが、ここではひとまず「やとく」が「やっておく」の口語的に省略された形として考える。

参考文献

- 菊池康人(2009)「「ておく」の分析」『東京大学留学生センター教育研究論集』第15号1-20
- 笠松郁子(1993)「『しておく』を述語にする文」言語学研究会編『ことばの科学6』むぎ書房.117-139
- 佐藤琢三(2015)「補助動詞テオクー意味・語用論的特徴と学習者の問題ー」『文法・談話研究と日本語教育の接点』くろしお出版1-18
- 高橋太郎(1976)「すがたともくろみ」金田一春彦編『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房177-153
- 谷口秀治(2000)「～ておく」に関する一考察—終結性を持つ用法を中心に—『日本語教育』104 日本語教育学会1-9
- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味I』くろしお出版
- 長野ゆり(1995)「～ておく」の用法について『現代日本語研究』2 大阪大学155-163
- 村井卷子(2009)「断り」行為において好感と不快感を決定する要因は何か：『スピーチ・レベル』と『方略』の二つの方策から』『筑波大学地域研究』30 17-30
- 山本裕子(2005)「～ておく」の意味機能について『名古屋女子大学紀要 人文・社会編』51
- 吉川武時(1976)「現代日本語動詞のアスペクトの研究」金田一春彦編『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房155-327
- Brown,P. and Levinson,S.C. (1987) Politeness: Some Universals in Language Usage Cambridge: Cambridge University Press(邦訳：田中典子(2011)『ポライトネス 言語使用における、ある普遍現象』研究社)

用例出典

- (16) (食ベログ)
<<https://tabelog.com/tottori/A3102/A310202/31002498/dtlrvw1st/B280450265/>>2022/1/6 閲覧
- (17) (アンケート) <https://www.torikae-kansai.com/reform/review.php>>2022/1/6 閲覧
- (18) 『実録テレビ時代劇史』能村庸一 1999 (『現代日本語書き言葉均衡コーパス』中納言版)
- (22) (親ケア) <https://www.oyacare.com/read/column/colum01_d/103/>2022/1/6 閲覧
- (23) Yahoo!ブログ (『現代日本語書き言葉均衡コーパス』中納言版)
- (24) 『男ともだち』海老沢泰久 1998 (『現代日本語書き言葉均衡コーパス』中納言版)
- (25) 『幻夢館』岡田留奈 2002 (『現代日本語書き言葉均衡コーパス』中納言版)

(大和啓子、群馬大学、yamato@gunma-u. ac. jp)